

# 希望胸に巣立つ

## 市内3高校で卒業式

保護者や在校生が見守る中、一步一步踏みしめながら退場する篠山産業高校の卒業生＝丹波篠山市郡家で



在校生を代表し、2年生の山南出身(山南出身)が送辞を述べ、これを受け、卒業生の西紀中出身は、3年間の高校生活を振り返り、同級生や在校生、教師、家族、地域に支えられてきた

丹波篠山市内の3高校で2月27日、卒業式が行われた。篠山鳳鳴では129人、篠山産業では144人、篠山東雲では20人が希望を胸に字び舎を巣立った。また、丹波市内の3高校では氷上西が2月26日、氷上が同27日、柏原が同28日に行っ

た。篠山産業の卒業式(90期生)には、全在校生(276人)をはじめ、多くの保護者や来賓が出席し、卒業生たちの門出を祝った。卒業生一人ひとりの名前が読み上げられた後、各学科(4学科)の代表生徒が、校長から卒業証書を受け取った。校長は式辞で、「至誠にして動かざるものは、未だこれあらざるなり」という幕末の偉人、吉田松陰の言葉を紹介。「誠意を尽くして当たれば、心を動かされない人はいないという意味。これからは皆さんが進む新しい道は決して優しいことばかりではない。自らの判断で道を切り開いていくことになる。そこには

自由と同時に自分自身で結果を引き受けるという重い責任を伴う。時に力及ばず周囲に理解されず、孤独や挫折を感じることもあるかもしれない。そんな時こそ、『至誠』という言葉思い出し、相手に対して、仕事に對して、何より自身自身の人生に對してこそ、偽りのない真心を尽くしているか。損得勘定や小手先の技術ではなく、泥くさくても一生懸命に誠実に向き合っているか。いつかの結果に一喜一憂するのではなく、自分の心に恥じない誠意を尽くし続けているならば、その熱意はやがて必ず周囲に伝わり、開きされてきた扉を開く力になる。などと、はなむけの言葉を贈った。

自由と同時に自分自身で結果を引き受けるという重い責任を伴う。時に力及ばず周囲に理解されず、孤独や挫折を感じることもあるかもしれない。そんな時こそ、『至誠』という言葉思い出し、相手に対して、仕事に對して、何より自身自身の人生に對してこそ、偽りのない真心を尽くしているか。損得勘定や小手先の技術ではなく、泥くさくても一生懸命に誠実に向き合っているか。いつかの結果に一喜一憂するのではなく、自分の心に恥じない誠意を尽くし続けているならば、その熱意はやがて必ず周囲に伝わり、開きされてきた扉を開く力になる。などと、はなむけの言葉を贈った。

自由と同時に自分自身で結果を引き受けるという重い責任を伴う。時に力及ばず周囲に理解されず、孤独や挫折を感じることもあるかもしれない。そんな時こそ、『至誠』という言葉思い出し、相手に対して、仕事に對して、何より自身自身の人生に對してこそ、偽りのない真心を尽くしているか。損得勘定や小手先の技術ではなく、泥くさくても一生懸命に誠実に向き合っているか。いつかの結果に一喜一憂するのではなく、自分の心に恥じない誠意を尽くし続けているならば、その熱意はやがて必ず周囲に伝わり、開きされてきた扉を開く力になる。などと、はなむけの言葉を贈った。

2026年3月1日  
丹波新聞

ことへの感謝を伝えた。(学習や部活動などで顕著な成績をおさめた各校卒業生の受賞者一覧は、後日掲載します)